

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

2007年4月 インタビューレポート

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

## インタビューレポート

日立電線株式会社



ポリコム社の新製品「Polycom RMX 2000」のリリースに先立ちベータカスタマーに。スイッチの開発、販売ノウハウやIPネットワークの構築実績を活用した大規模なビデオ会議システム導入での実績多数



日立電線株式会社  
情報システム事業本部  
システムエンジニアリングセンター  
クライアントエンジニア第二グループ  
マネージャー 手塚 啓之氏(左)  
松本 正樹氏(右)

聞き手：CNAレポート・ジャパン 橋本 啓介

日立電線株式会社は、電線・ケーブル、情報通信ネットワーク機器、高機能材料の製造販売を主要事業とした

日立グループの中核企業。東京都内の秋葉原UDXに本社。国内に11支店営業所、7工場、物流センタ等、また国内外に傘下の関連会社を持つ。社員数は、連結15,199名(2006年3月期)。売上は日立電線グループ連結で4,250億円(同)。

1918年に日立製作所日立工場(現在の山手工場)内に電線工場を新設、電線及び伸銅品の生産を開始し、1956年に日立電線株式会社として設立現在に至る。東証一部、大証一部上場。

会議システムについては、ポリコム Platinum 認定代理店として、ポリコム社の多地点接続サーバー、ビデオ会議システム、音声会議システムを取り扱っており、「Polycom MGC シリーズ」多地点接続サーバーでは、端末が数百台規模の大規模案件で多数の実績を持つ。

今回 Polycom RMX 2000 発売に先立ち、同製品のベータテストを担当。テスト結果をポリコム社にフィードバックしている。

橋本：御社は、ポリコム社のビデオ会議システムでの大規模実績を多数持つと伺っています。

手塚氏：お陰様で、Polycom MGC シリーズを使った100～1000 端末におよぶ大規模ビデオ会議システムの導入実績においては、当社が国内屈指と考えております。

特にIPベースのビデオ会議システムでは、多数の実績があり、民間企業、大学、研究機関、官庁自治体等のさまざまな業種に対して、端末から多地点接続装置(以下MCUと記載)まで、ビデオ会議システムの設計、構築、そしてサポートまでワンストップで対応しています。

当社では、これまで培ってきた実績とノウハウを結集して、お客様のニーズに合わせたビデオ会議システムをト

ータルにサポートします。

**橋本：ビデオ会議システムを社内に構築する場合 MCU が必要になります。**

**手塚氏：**Polycom MGC シリーズは多地点装置という位置付けだけでなく、異なる端末間のインターオペラビリティの問題、インフラストラクチャの問題、利用者の様々な運用問題を吸収し改善してくれる装置です。MCU はユニークな機能を搭載し、多様化する運用のサポートができる会議システムの要としての役割を持っています。

**橋本：MCUの基本的な仕組みについて簡単に説明していただけますでしょうか。**

**松本氏：**MCU の基本的な機能は、複数の拠点にあるそれぞれのビデオ会議端末から送られてくる映像や音声を、MCU 内に取りこんで、利用シーンに応じた映像や音声データを全ての接続端末に向けて配信します。最近では、ビデオ会議端末から映像を選択要求できる機能も搭載されています。これによって、各拠点の参加者が1つの会議室にいるかのような会議ができます。

MCU の開発には非常に高度な技術力が必要で、動画をスムーズに処理する回路構成など大変複雑に出来ています。

それらを処理するものの中心には、DSP (Digital Signal Processor) と呼ばれる、パソコンにおける CPU にあたるものがあります。CPU 性能が低いパソコンでストリーミングや映像コンテンツを再生したりアプリケーションで処理したりすると映像のコマ落ちや音声の途切れが発生しますが、それと基本的には同じ考えで、MCU は映像という非常に負荷の高いデータを扱うため搭載されている DSP は高性能なものを実装しています。ただ、パソコンと違うのは、膨大な映像データを処理するため DSP が多数使われている点です。

**橋本：**DSP に対する負荷は年々上がっていると伺っています。

**松本氏：**ビデオ会議システム全般に言えることですが、ビデオ会議が使用する帯域が数メガ以上にもなってきたこと、ここ 3、4 年で新たに H.264 という映像符号化方式の実装、そして、4CIF や HD (ハイデフィニション) などの高解像度、また、さまざまな新しい機能が実装されるなどで、処理が高度且つ複雑になってきているため、DSP の処理負荷は急激に高まっています。



Polycom RMX 2000

**橋本：**Polycom MGC シリーズに加え、今回ポリコムジャパンから新たに Polycom RMX 2000 が発表になりました。

**手塚氏：**Polycom MGC シリーズがビデオ会議システムを支えてきたのは言うまでもなく、それに加え新たに新製品 Polycom RMX 2000 が発表されるようになったのは、いくつか理由があります。NGN (Next Generation Network) ・IMS (IP Multimedia Subsystem) 対応、従来製品を超える信頼性、拡張性、多様化する運用への対応、管理機能の対応等があげられます。

従来の Polycom MGC シリーズは、多地点機能だけではなく、スケジュール用データベースが MCU 内に実装されており、運用管理に工数がかかっていましたが、Polycom RMX 2000 はオンデマンド型なので運用管理面でのコスト削減が可能になります。

Polycom RMX 2000 は、使用帯域に関係無くポート数が確保されて(1シャーシで80ポートまで)、リソース管理という観点でも、シンプルな設計になっています。さらに価格面でも、従来に比べ格段にポート単価が下がっております。

**橋本：**これまでの Polycom MGC シリーズと Polycom RMX 2000 との違いはどこにありますでしょうか。

**松本氏：**Polycom MGC シリーズは、ISDN や ATM 回線などの公衆網を前提に設計され、IP 網にも対応した装置です。日本では、ブロードバンドの急増に伴う劇的なネットワークインフラの変化により、広域接続についても通信事業者のイーサネット専用線サービスが一般的です。

当社のビデオ会議システム納入実績においても、ここ4-5年はIPネットワークでの導入が大半を占めます。

今回新たに発売される Polycom RMX 2000 は、IP ネットワークでの使用に最適化された設計であり、今後ますます増加する IP ネットワーク環境において、色々なビジネスシーンで柔軟な対応ができる製品だと考えています。

また、従来の Polycom MGC と比較して、映像の追従性、輪郭などの鮮明さ、フレーム数等格段に向上しています。特に CP(Continuous Presence)による分割映像については、従来の Polycom MGC と比較し半分程度の遅延であり、個々の画像についても非常にスムーズだと感じています。

さらに、Advanced TCA 規格の採用により、システムとは独立したハードウェアのモニタリング機能等、信頼性の面においては非常に優秀であると評価をしています。

**橋本：**御社は、Polycom RMX 2000 のベータテストカスタマーということを知っています。

**手塚氏：**Polycom RMX 2000 のベータテストカスタマーは、世界で9社、アジアでは当社1社になります。当社が Polycom RMX 2000 のベータテストカスタマーに選ばれた理由は、下記の3点によるものと考えます。

①ネットワーク機器製造メーカーであり、SQA(ソフトウェア・クオリティ・アシュアランス)機能を持ち、厳しい物作りの視点で Polycom RMX 2000 の品質を見る能力。

②今まで培われた国内トップクラスの Polycom MGC シリーズの導入実績と有用な顧客を持っている。

③常に顧客の抱える問題や要求する機能などをポリコムに言い続けてきており、一次代理店の立場からポリコムと一体となって良いものにしようと一緒に取り組んできた姿勢。

テストは、昨年12月から当社評価ルームに、100台程度のSD/HD端末を用意して、フィールドで経験した数々の運用形態を模擬したテストを実施して、それをポリコム社にフィードバックすることで正式出荷に向け協力させて頂いております。

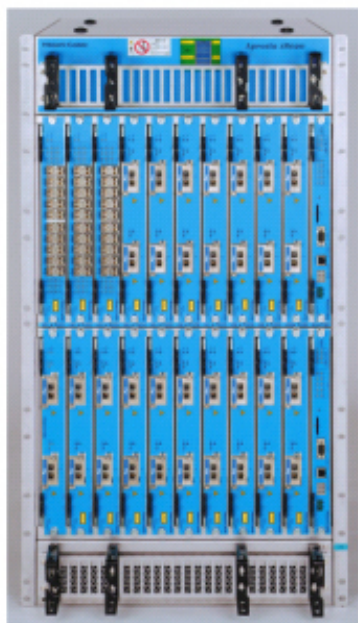
**橋本：**導入後のサポート体制について教えてください。

**松本氏：**当社では、Polycom RMX 2000 のリリース時期に併せて、コールセンターなどの一次切り分け対応やEメールによる技術問い合わせなどを含めたサービスメニューの拡充を予定しております。これを実現するために、TAC(Technical Assistance Center)、品証部門などのバックヤードについても強化を実施しております。

ポリコムでは日本国内のサポート強化を目的として、昨年11月に最先端の検証施設を備えた「接続検証センタ」を東京に開設しました。この接続検証センターは、米国ポリコム本社が開設する世界で3番目のセンターで、米国内にある他2ヶ所のセンターと連携して新製品のレビュー、実機を用いた相互運用性のテスト、拡張性のテスト、及び比較テストが可能です。これらのテストにより、自社製品の操作性を改善し、他社製のシステムとシームレスに統合できることを検証します。

当社は、ポリコムプラチナパートナーとして接続検証センターと綿密に連携を取りながら、お客様に十分なサポート体制を提供させて頂く考えです。Polycom RMX 2000

の販売開始は、2007 年前半になる予定です。



APRESIA シリーズ

**橋本：**IP ネットワークでビデオ会議システムを構築、導入する上でのポイントは何でしょうか。

**手塚氏：**ネットワークの構築からビデオ会議システムのインテグレーション、そして導入後のサポートまでをワンストップで対応できるインテグレータを選定すべきです。

当社は、2000 年からポリコム製品を販売してきました。この当時のビデオ会議は、ISDN 主流でしたが、当社ではブロードバンドインターネットの到来を早くから予想し 2003 年に FireWall ソリューションとして H.323 ゲートウェイ Througate (スルーゲート)を開発しました。さらに、2004 年には、企業などを中心にビデオ端末の大量導入が始まり、運用管理コストを削減するために Polycom MGC シリーズを誰でも簡単に操作できる運用管理ソフトウェア「ConferenceNavigator (カンファレンスナビゲータ)」を開発しました。

私どもは常に時代のニーズを捉え、必要な物は自ら開発してお客様へ提供してきました。

そもそも当社は、ビデオ会議システムを販売するだけではなく、APRESIA (アプレシア) シリーズ(写真)と呼ばれるスイッチングハブを開発しているネットワークベンダーです。

ネットワーク機器ベンダーとして 20 年以上の実績があり、国内スイッチングハブ市場で上位にランクされています。

APRESIA シリーズには、通信事業者向けとエンタープライズ向けのラインナップがあり、規模やニーズに合わせた製品を提供しております。



APRESIA シリーズ

また、ハードウェアとソフトウェアの開発製造を全て国内で実施しており、品質と信頼性には自信を持っています。

IP による大規模なビデオ会議システムを構築するためには、スイッチ、配線を含むネットワーク全体のパフォーマンスなどを理解する必要があります。単にビデオ会議システムをネットワークにつなげばよいというわけではありません。

何故ならば、帯域不足によるパケットの遅延・パケットロスが映像・音声に影響を及ぼし正常なビデオ会議を開催できないからです。

当社はこれまでに培った多くの事例から、お客様のニーズに合わせた最適なビデオ会議システムを、設計から構築、そして導入後の運用サポートまでを一貫してご提供する事が可能です。

また、今後は広帯域の IP 網を利用してビデオ会議システムを活用することで、これまでのような単なるビデオ会議としての利用という枠に止まらず、画像や動画といったコンテンツを共有することで企業ビジネス・教育・医療・福祉・行政・自治体等の幅広い分野で活用することが可能となります。

こういった幅広い利用形態に対してお客様の個々のニーズに対して的確なシステムをご提供していくことが、ビデオ会議システム提供ベンダーには求められてきています。

橋本：有り難うございました。

連絡先：

日立電線株式会社  
情報システム事業本部  
事業企画部

TEL: 03-5256-3194

FAX: 03-5256-5462

E-mail: [mstu@mail.hitachi-cable.co.jp](mailto:mstu@mail.hitachi-cable.co.jp)

WWW: <http://www.hitachi-cable.co.jp/>